

指定管理者の指定管理に関する評価シート

1 指定概要

施設概要	名称	放課後かまくらっ子にかいどう・鎌倉市にかいどう子どもの家「めだか」
	所在地	鎌倉市二階堂912-1
	名称	放課後子どもひろばいなむらがさき・鎌倉市いなむらがさき子どもの家「いなほ」
	所在地	鎌倉市極楽寺3-2-3
指定管理者	名称	株式会社明日葉
	住所	東京都港区芝4-13-3PMO田町東10階
指定管理期間		令和5年（2023年）4月1日～令和10年（2028年）3月31日

2 評価

（1）管理運営の状況

項目	評価内容	適否
開館時間、休館日等	仕様に定められた開館予定日数、開館時間は守られているか。	○
管理運営体制	①利用者数は適正か	○
	②業務執行体制（各業務、作業の責任者等）が明確になっているか。	○
	③業務に必要な職員数は確保されているか。	○
	④管理運営及び業務に必要な有資格者を必要数配置しているか。	○
施設管理体制	①利用実績に関する帳簿が作成され、適切に保管されているか。	○
	②業務日誌等の報告書、点検記録は適切に保管されているか。	○
	③生じた事故の記録は保管されているか。	○
研修体制	計画的に研修等を実施しているか。	○
市との連絡	①各報告書や事業計画書が適切に提出されているか。	○
	②緊急時の連絡体制が明確化されているか。	○
再委託等	①指定管理業務の全部、または主たる業務を第三者に再委託していないか。	○
	②市の承諾なしに、業務を第三者に委託、請け負わせていないか。	○
	③再委託先から適切に業務報告をさせるなど、再委託先の業務を適切に管理しているか。	○
利用許可	①利用者の平等な利用が確保されているか。	○
	②利用までの手続きが円滑に処理されているか。	○
利用料	①利用料の徴収は適切に処理されているか。	○
	②利用料の減免の手続きは適切に処理されているか。	○
施設等の維持管理	①法定保守点検は点検内容、時期等が法令基準に基づき確実に実施されているか。	○
	②点検によって異常等が認められた場合、速やかに修繕、交換及び調整等の適切な処置が実施されているか。	○
	③施設、設備等が利用に支障をきたすような状況のまま放置されていないか。	○
備品の維持管理	備品の保管及び管理は適切であるか。	○
施設等の清掃	整理整頓及び定期的な清掃が適切に行われているか。	○
危機管理等	①（夜間等）職員不在時の警備体制が明確化されているか。	○
	②不審者等に対応するためのマニュアルが整備されているか。	○
	③鍵の管理は適切に行われているか。	○
	④災害発生時のマニュアルは作成されているか。	○
	⑤災害発生等を想定した避難訓練を年2回以上実施しているか。	○
情報管理	個人情報等の管理が適切に行われているか。	○

（2）経営の状況

資格	指定管理者の申請資格に抵触する事項はないか。	○
収支状況	適正な経費の執行管理が行われているか。	○

適否基準

「○」：適切である。 「△」：概ね適切である。 「×」：適切でない。

3 利用者意向調査の結果

(1) 指定管理者が行った利用者意向調査の結果

①利用者意向調査の実施内容	ア 調査方法 指定管理施設において、紙媒体による実施。 無記名にて記入のうえ、施設へ直接提出。 イ 回答者数 46人 ウ 質問項目 別紙参照。
②調査の結果	別紙参照
③調査の結果得られた主な意見・回答	保護者からは、新しいおもちゃや体を動かして遊べる遊具、外遊びの機会を増やしてほしいという意見がありました。子どもが安全に楽しく過ごせていることや、心の揺らぎにも丁寧に対応していることへの感謝の声が多く寄せられています。補食の提供やおやつの内容・量の充実、利用料金の見直しを含めた制度改善を求める意見が見られました。プログラムの申込みや連絡事項について、紙ではなくアプリやWebで完結できるようにしてほしいとの要望がありました。保護者が子どもの様子を見られる機会があるとよい、という意見や、イベントの継続を望む声も挙がっています。また、職員の対応のばらつきや、子どもの家とアフタースクールの交流機会を増やしてほしいという意見もありました。

4 指定管理者による自己評価

(1) 利用者の要望等を把握し、それらを反映する取組についての評価

年1回の対面式保護者会を行うことによって直接意見を聞くことができた。
また、年末年始にかけて指定管理者主体の保護者及び児童に対するアンケートをWebアンケートツールを利用し実施、多くの回答をいただくことができた。今年度に関しては、保護者に参加していただく茶話会を実施した。回答内容については施設と共有し、運営改善に向けて本部職員と施設職員で話し合いの機会を設け、運営に反映することができた。具体的な事例として、茶話会にて保護者から鎌倉ならではの地域と関わるイベントやプログラムを取り入れてほしいとの意見をいただき、実際に鶴岡八幡宮に訪問して歴史を学ぶプログラムを実現することができた。結果、プログラムに対しての評価は上がり、改善に繋げることができた。

(2) 様々な媒体を用いた利用者への情報提供についての評価

入退室管理システムのメール機能を用いて、保護者に情報発信している。プログラムカレンダーにおいては学校の協力のもと掲示。地域団体から依頼があったチラシを施設内に掲示し、利用者に周知した。にかいどうについては、青少年課のLINE配信システムにより乳幼児プログラムも配信。掲示だけでは利用者が増加しないことが課題であったが、メールなどの電子媒体での配信を用いることで普段施設に来所しない方からの反響もあった。

(3) 全体的な評価

・3年目の運営を迎え、当社のノウハウを活かした運営をすることができた。
・プログラムについては、コーディネーターを中心とし、地域の方を招いたプログラムをはじめ、当社独自のプログラムとして「リーフスポーツ（運動系プログラム）」、「ヨーヨー教室」を継続して実施することができた。にかいどうにおいては、地域との関わり合いを増やすため、鶴岡八幡宮やクルミツ子の製造元である鎌倉紅谷へ訪問する等、この地域でしか実現できない児童が楽しみにしている活動を実施することができた。また、弊社が運営しているかまくらっ子2施設をお互いに訪問する交流イベントを実施した。その際、卒園した保育園が一緒だったお友達に再会できる等、児童にとってかけがえのない時間を過ごすことができた。
・次年度、にかいどうにおいては、保護者の意見を反映し、児童の過ごし方を保護者と職員が一緒に考え、作り上げていくための機会を計画中。いなむらがさきにおいては、新施設になったことで、地域との連携が深まっており、これまで以上に児童と地域が交流できるプログラムを計画中。
・指定管理者主催の職員向け研修においては、多様な特性の児童に対する理解や応急救護等、多岐に渡る研修を常勤、非常勤問わず実施することができた。
引き続き、放課後かまくらっ子事業の理念である、出あう・つながる・ふるさとで自ら育つを意識した取り組みと運営していく。

5 総合評価

総合評価
【出あう】多様なプログラムにより地域との交流の機会を創出し、また指定管理者のノウハウを生かした独自のプログラムを実施するなど、子どもたちにとって特別な時間を過ごすことができている。 【つながる】アンケートの「保護者の声、子どもの声が施設に反映されていると感じるか」という項目では、8割以上から肯定的な回答を得ていることは評価できる。「保護者参加ウィーク」として、1週間、お迎えの保護者を施設内へ誘導し、子どもたちと共に工作などを行う取組は、保護者に施設への理解を促すとともに、子どもたちが施設で過ごす姿を見ていただける素晴らしい取組であった。こうした取組から肯定的な意見が生まれたものと推察する。「反映されていない」との回答にある具体的な意見については真摯に向き合い、対応策、改善策を示し、公表していただきたい。 【ふるさとで自ら育つ】いなむらがさきでは、「保護者参加ウィーク」を通じて放課後かまくらっ子を知っていただいたことをきっかけに、保護者を講師とした新たなプログラムが生まれた。子どもたちにとって、身近な地域の保護者の専門性に触れる機会となっており、放課後かまくらっ子を利用する子どもたちにとって地域で育つ基盤をつくり出していることは評価できる。また、にかいどうでは、保護者座談会の実施により保護者の声を取り入れ、実際に工場見学をプログラムに取り入れる取組は評価できる。施設外プログラムを多く実施しているほか、施設間交流を通して、自分の住むまちを知る機会を生み出している。施設の近くにいる高齢者との交流についても、ぜひ取り入れていただきたい。 【その他】保護者アンケートについては、十分な分析が行われているとは言えない。今後は、利用者の声を丁寧に整理・分析するとともに、良い意見だけでなく、否定的な意見や要望についても適切に把握し、それらを踏まえた対応方針や具体的な対応策を明確にした上で、取組の内容や結果について市へ報告されることを期待する。

6 放課後かまくらっ子推進部会の意見

○管理運営面では、おおむね良好に推移していることが確認できた。 ○利用者からの要望・ニーズを把握するために、webアンケートはじめ、対面の茶話会を設けて、地域の特色を生かしたプログラムを導入するなど、保護者の意向を子育て支援に役立てる良い取り組みとして評価できる。 ○一方、会社のノウハウを生かした運営としてコーディネイター企画による「運動系プログラムやヨーヨー教室」といった特色あるプログラムの継続は、子どもたちにとっても期待値の高まるプログラムである。3施設交流プログラムは、子ども同士のつながりを意識した興味深いプログラムであり、同系会社ならこそその施設間交流を実現していることは大変評価できる。 ○職員の対応格差の問題が保護者から指摘されてようだが、研修機会を保障することで、格差は正につながっていることも評価できる。職員の資質・能力の格差は、利用者にとっても大変不安な材料である。研修の重要性もさることながら、施設内で子どもの様子を振り返る「対話」の時間を持つことで、職員の資質で求められる本質的な「子どもへの寄り添い、子ども理解」あるいは「保護者の意向を受け止める意義」といった課題意識が向上するものと思われる。（※但し、保護者の意向を受け入れるとは、保護者のニーズをすべて受け入れるということではなく、子どもの育ちをともに考える支援員として、子ども基本法に示されるすべての子どもの最善の利益を第一に考え、子どもたちの放課後の時間を充実したものにするために支援するという姿勢を意識するということである。）
--